

## 共同研究プロジェクト「複文構文の意味の研究」研究発表会

コメントメモ (15:50~16:10)

2月19日(土)

於大学共同利用施設「ユニティ」

橋本修(筑波大学)

### 発表1

- 日本語の複文研究は個別的な研究に偏る傾向があり、複文全体を視野に入れた研究モデルや研究アプローチに乏しい。
- 名詞の並列と、中立形接続構文／テ形接続構文
  - ※主節(文)の特殊性を認めるか認めないか
    - 国文法的な係り受け観との関わり 小さな白い鶏 「小さな」と「白い」は並列？
    - 構成素をなす並列となさない並列

### 発表2

- 連体修飾節構造に適用する際、南の四段階をどのように調整するのが適切か
  - ※相互包摂ルール(A類はBC類を含み込めない etc.)の例外になる点の扱い
- 連用修飾節との交流 3とも関連

### 発表3

- Croft2001と中間的構文の存在 主要部内在型関係節
- 類型論的な見方
- 定形性 finiteness
  - ※名詞的なもの $\leftrightarrow$ 述語的な(文的な、主節的な)ものとの共通性と相違

### 発表4

- コーパスへの期待
- 言語変化の研究への寄与
- 対照研究・類型論への寄与 パラレルコーパスへの期待